

2015年 9月 10日

2014年度採択 研究の国際化推進プログラム 研究成果報告書

採択者 (研究代表者)	所属機関・職名：文学部・教授 氏名：中川 成美
研究課題	日本におけるクィア・スタディーズの国際共同研究

I. 国際的研究成果発信の目的・意義の概要

今次の国際的研究成果発信の目的・意義について、概要を記入してください。

立命館大学ジェンダー研究会は、2007～2009年度において「ジェンダー正義」に関するテーマで科研費を受託し、その成果を踏まえた上で2010～2012年度は「バックラッシュ時代の平和構築とジェンダー」というテーマで科研費を再度受託、ポスト紛争における「平和構築」とジェンダー正義の確立を目標とする研究を行った。2013年度は「新自由主義のなかの貧困とジェンダー」をテーマに、「ジェンダー正義」と貧困・格差をめぐる研究を展開した。こうした蓄積を基盤として、2014年度はジェンダー格差の根底に潜むセクシュアリティにおける不当な配置をめぐる研究および、クィア・スタディーズの理論と文学研究の学際的な相互発展を中心的な目的として設定した。

90年代以降、既に世界ではこうした新領域に関する学問的蓄積は整えられつつあるが、それと比較する限り、日本のアカデミックの分野では研究の場が未だに十分確保されているとは言い難い。そうした実状に鑑みて、現在の日本におけるジェンダー理論の学的水準を保つためにも国際共同研究の必要性は喫緊の課題であり、重要な社会的意義が存在する。

また、ジェンダー研究会は既年度より、立命館大学生存学研究センターと連携し、共同の研究会を開催している。生存学研究センターに所属するジェンダー研究者、クィア・スタディーズ研究者と意見交換し、関連分野との学際的な研究活動を行っている。前年度の研究課題によって明確となった問題点を継承し、新自由主義的政策とクィア・スタディーズの関わりを検証する。さらに、アメリカを中心とするクィア・スタディーズの現場との情報交換、および共同作業による理論構築は今後の研究に必須であるが、ボストン大学、UCバークレー、UCLAなどの当該研究に関わる研究者とのネットワークを活用し、日本におけるクィア・スタディーズの理論構築を志向していきたい。

II. 国際的研究成果発信の成果と今後の展開計画の概要

今次の国際的研究成果発信で得られた成果と今後の展開計画について、概要を記入してください。

2014年度においてジェンダー研究会では、これまで蓄積したジェンダー理論にまつわる研究に加え、クィア・スタディーズの知見を導入することによって、ジェンダーにおける差別・暴力の問題性をより広範に再検討することを目的とした。その発端の場として、2015年1月9日・10日に国際コンファレンス「クィア理論と日本文学—欲望としてのクィア・リーディング—」（主催：立命館大学国際言語文化研究所）を開催した。

本コンファレンスでは国内外において先端的な活躍をする研究者を講演に多く招聘し、また海外に向けて研究発表の参加募集を広く行った。その結果、2日間で19名もの研究者が登壇することとなり、フロアと活発な議論を交わしながら盛況のうちに終了した。本コンファレンスは、社会学を中心として発達したクィア・スタディーズを文学研究の領域へ理論的に取り込むことで、作品読解の重要な鍵としてクィア・リーディングが機能することを、多数の登壇者が実践的に報告した。理論構築のための素材として文学作品を提供する方法ではなく、クィア・リーディングにおける多面的な可能性や、日本文学研究における新たな方向性が登壇者・フロア参加者の双方に示されたことは大きな成果である。このコンファレンスによって基礎的に形成された研究成果は記録だけに留めることなく、クィア・スタディーズの理論的發展に貢献するような形で国内外へ還元していきたい。また、コンファレンスで構築された人的ネットワークも、今後の研究会・シンポジウムの開催計画へ大いに寄与すると考えられる。